

学校教育目標 かかわりの力を育てる 目指す子ども像「元気にあいさつできる人（自立）」「楽しく運動できる人（健康）」「仲良く生活できる人（協力）」

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価 : A：3点 B：2点 C：1点 D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大9点、教員最大15点）
達成度 : A 達成できた（8割以上） B ほぼ達成できた（6～7割） C あまり達成できなかった（4～5割） D 達成できなかった（3割以下）

No	項 目		重 点 目 標	具体的方策・（評価指標）等	達 成 状 況	達成度	課題及び改善策
1	楽しい学校	指導・支援の充実	(1)個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づき、児童一人一人の課題を明確にしながら、個に応じた授業（指導・支援）の充実を図る。	①授業計画や個別の支援に係る検討を行う学部の実施 ②全員で評価・改善を重ねる研究授業の実践（年3回）	①2学期から定例化した学部会で、授業の計画や個別の支援について話し合ったが、連絡事項等も含めたたくさんの内容を整理しきれず、授業について十分な話し合いができないこともあった。 ②担任3名それぞれに研究授業を行い、全員で話し合う機会を設けたが、2学期後半は毎時間の実施が難しく、授業改善としては不十分な面もあった。 ③具体的場面をとらえた教員間の日常的なやりとりや学部会での話し合い等の中で互いに知識・理解を深めることができたが、外部講師等から指導助言を受ける機会などは設定できなかった。 ④県内特別支援学校の公開研究会や研修会等に全教員が参加し、個々に研修を深めることができたが、内容を全体化する場が少なかった。	B	【指導・支援の充実、専門性の向上】 ・年度当初に、年間の業務を見通して無理のない研究授業計画を作成し、学部会とは別に学部研を設定して可能な限り教時ごとの検討を全員で行うようにする。 ・研究授業に外部助言者を招聘し、多面的な視点から指導いただくことで指導・支援の幅を広げ、専門性の向上につなげる。 ・研修報告会を設定し、外部の研修会や公開研究会に参加した内容を実実に全体のものにする。
			(2)障がいの特性や指導法等について理解を深め、指導・支援の充実及び専門性の向上を図る。	③実態把握や指導法等に係る研修機会の設定 ④外部の授業研究会等への積極的参加	教2（学部支援11） 教3（個に応じた指導10） 教8（専門性の向上9） 保2（子どもの成長9） 保3（子どもに合った指導9） 48/63 76%		
			交流及び共同学習	(1)学校同士が相互に連携を図り、設置形態のメリットを活用し児童の実態に応じた交流を推進する。	①五小との共用施設等を活用した自然な交流機会の設定 ②双方にメリットのある交流及び共同学習実施に向けた山五小、村特本校との連携・協力		
		教6（五小、本校との交流11） 保5（多くの人とかわる学習8） 19/24 79%					
2	安全な学校		(1)安全安心を第一とする教育活動を推進する。	①ヒヤリハットの集約と共有（児童の重大事故0） ②月1回安全点検実施及び即時改善 ③五小と連携した避難訓練や危機管理研修会の実施	①ヒヤリハットはその都度共有するとともに、月毎に職員会議で確認したこともあり、重大事故は0だった。ただし、その都度の記録が徹底せず、記入者が固定化する傾向もあった。 ②月初めに安全点検を実施し、異常箇所は可能な限りすぐに改善した。 ③五小と共同で避難訓練を年4回、不審者対応訓練を1回実施し、緊急時の動きや防犯・防災の手立て等について共通理解を図ることができた。	A	【交流及び共同学習】 ・本校との交流では、むらとくまつりでの交流のあり方を検討し、教育課程に生かしていく。五小との交流は、今年度の成果を踏まえ、年度当初から提案し、スタートできるよう予め検討しておく。
			教1（安全安心13） 保1（安全安心9） 22/24 92%				
3	頼りになる学校	家庭・地域との連携	(1)家庭・地域との協働体制を確立するとともに信頼される開かれた学校づくりに努める。	①学部・学級だより、連絡帳等による保護者への学習計画や活動の様子のお知らせと日常的コミュニケーション（授業参観、行事等への参加状況）	①学部・学級だよりの定期的発行、毎日の登下校時や連絡帳でのやりとり、月毎の保健だよりや行事予定のお知らせ等で常に情報提供とコミュニケーションを図っている。保護者は非常に協力的で、学校行事やPTA行事、授業参観等の出席率は90%であった。 ②2学期から、学校だより（山形校だより）を作成し、五小に依頼して第五地区等関係各所に回覧している。また、南部公民館、東部公民館の文化祭に児童の作品を出品し、多くの地域の方々に見ていただいた。	A	【安全安心な学校】 ・1年間のヒヤリハットを新年度当初に確認し、その蓄積の重要性を共通理解し、小さなことでも記録して共有する取り組みを推進する。
			(2)様々な機会をとおして、地域の特別支援学校としての情報発信及びセンター的機能の発揮に努める。	②地域への学校だより回覧と地域の文化祭への出品等 ③相談や見学等の依頼への積極的対応	③山形市就学相談（7件）、就学に係る教育相談（7件）、学校見学（11件）等に対応した。また、特別支援教育に関する五小や関係機関からの依頼（講師・相談）にも応えている。（ <u>延件数</u> ）		
			教4（家庭との連携12） 教5（開かれた学校12） 教9（センター的機能10） 保4（担任と保護者の連絡9） 保6（地域への発信8） 51/63 81%				
4	やりがいのある学校	安定した分校経営	(1)五小との日常的な連携の方法を確立し、分校経営の安定を図る。	①毎週又は隔週の二校連絡会実施 ②確認や依頼など日常的な連絡調整	①毎週（2学期中頃からは隔週）二校連絡会（教頭・教務）を実施し、日程や必要な事項（交流、特別教室等の使用、安全面の確認など）について調整を図ることができた。 ②二校連絡会に限らず、柔軟に連絡を取り合い、互いの教育活動が充実するよう協力を図った。	A	【協働体制づくり】 ・学部会の定例化を継続するとともに、検討事項と確認事項を明確にして充実した話し合いができるようにする。
			(2)ゆとりとやりがいのある職場づくりを推進する。	③会議等の効率化、定時退校日の実施 ④一人一分掌による責任の明確化と学部会等による協働体制づくり	③会議内容を精選し、原則休憩時間後から始めて1時間で終了するようにした。毎週金曜日を定時退校日とし、年間24日一斉退校を実施できた。（2月25日現在） ④2学期から毎週月・火曜日に学部会を実施し、担当の原案をもとにチームで検討した。		
			教7（五小との連携13） 教10（連帯・働きがい13） 教11（ゆとり12） 38/45 84%				

